令和5年度後期 改善計画（基盤教育群）

通番	科目名	授業改善計画
1102	全学自由ゼミ	向学心のある学生さんに受講していただいたので、大変楽しくゼミを運営することができました。これからも勉学に励んでください。期待しております。
1103	情報化社会と技術	<p>太白では今年度も試験的に、食産業関連企業のDXや"AI"活用に関する情報も意識的に取り入れ、特に各企業の新卒採用ページなどを取り上げ、当該分野でも今後情報化が進むことを紹介した。ある程度の割合の学生には、食産業と情報化の関係を理解されたとアンケートの結果からは考えられるので、来年度も引き続き当該分野の情報化の現状等を講義内容に含め、当事者意識を持てるよう講義を進めたい。</p> <p>大和では「難しかったがそれゆえにためになった」というコメントと「難しく興味がない」というコメントの両方があった。匙加減がそれこそ難しい。来年度の学生は共通テストの「情報」でそれなりの点数を取っていることが期待される。それに合わせて、教科書も授業計画も変更する予定である。</p> <p>「課題が多すぎる」というコメントについては上述のとおり。</p>
1105	English Gateway II	担当する教員間のコミュニケーションは良好で頻繁に情報を共有しているため、シラバス通り授業を進めており、評価ポイントや評価方法も同じである。しかし、学生の指摘にあるように、各教員が出す課題の難易度や提出する頻度等についてクラス間による差がみられた。今後は、課題内容や提出頻度についても情報を密に交換し、クラス間による差をなくしていきたい。
1106	English Self-Expression II	毎年、私たちは教師に関係なく、すべてのクラスで均一なものを作る努力を続けています。
1107	University English	ディスカッションの質を向上させるためには、もう少し多くの学生にこのクラスを受講してもらった方がいいだろう。また、授業開始前の学生の負担は、選択授業としてはかなり大きい。ビデオによる理解度チェックの一部を授業の最初に行った方がよいのではないかと考えている。
1109	Academic Reading	英語で考え、英語で文献を読む癖をつけることができるように、授業内でもっと工夫をしようと考えている。
1110	中国語 II	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出方法は具体的な指示を出します ・学生の理解を深めるために授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです ・両クラスの学生人数のアンバランスを調整します ・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めていろいろ工夫を続けていきたいと思います ・使用テキスト以外から（中国語の社会・文化）も様々な学習を取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思います ・授業方法に更に工夫をし、学生の皆さんが楽しく中国語の力を向上できるように環境整備を実施していきたいと思います。
1111	韓国語 II	韓国語 II の授業の目標は「基礎的な日常会話ができる文法や語彙を習得する」というものであり、そのため、関連する言葉や文法について学んでいる。また、それだけではなく、学んでいる言葉に関連する歴史や生活礼儀など文化の紹介を行っており、より韓国語が理解できるように務めている。それにより、学生たちがより韓国の文化に親しみを感じて、韓国語を勉強するという動機付与になるのであろう。しかし、今までの授業は、教員による一方的に伝える講義式のものである。語学という立場であれば教員は自分が知っている情報を一方的に伝えて学生はそれを習得するという形の授業になりやすい、しかし、学生が自ら自分が知りたい情報を探るというような方法で授業に参加できるのであればより楽しく言葉や文化について学んでいくはずである。そのためには学生たちと教員のあいだにコミュニケーションが必要である。そこで、今後の授業は、学生たちと教員のあいだにコミュニケーションをとるための改善を行うようにする。例えば、コメントシートなどを通して学生が知りたいものが何かなどの把握や授業中に質問する時間を長く設ける、また、文化の違いなどを一緒に調べてみるなどのようにより積極的に参加できるように改善していく。
1112	スペイン語 II /Spanish II	
1114	グローバル・ビジネス/Global Business	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生からは、「レジュメが見やすく講義も分かりやすかった」、「世界情勢やビジネスについて学ぶことができた」、「ゲスト講師から様々な話を聞いてよかった」等、授業の内容を評価する声が多かった。次年度（令和6年度）も受講者の学ぶ意欲に貢献できる講義の実施を心がける。 ・他方で、出席確認や提出物の方法についての改善の要望もあったので今後検討したい。

令和5年度後期 改善計画（基盤教育群）

通番	科目名	授業改善計画
1115	憲法	・資料が分かりやすくまとめられていた、時事問題を当てはめた解説がわかりやすかった、等の評価を得た。引き続き、分かりやすい丁寧な授業を心がけたい。
1116	政治学概論	「授業マナー遵守への配慮」と「授業外の学習時間」以外の項目は、平均以上の評価を受けた。前者に関しては、オンライン授業であったため物理的に私語は不可能であり、なにが評価を下げたのか不明である。後者に関しては、今年度からは、授業後に自ら探求することを明示的に薦めている。自ら学んだことを毎回のコメントに書くことも推奨する。そのコメントについて、毎回の授業の冒頭で取りあげ、さらに探求意欲を向上させるつもりである。
1117	国際関係論（食産）	・資料が分かりやすくまとめられていた、時事問題を当てはめた解説がわかりやすかった、等の評価を得た。引き続き、分かりやすい丁寧な授業を心がけたい。
1118	社会と経済	概ね大学全体の平均値より高かったが、自身の中で低かった点について、改善計画を検討する。「知識、技術等役立つ、関心」の内容が低かった。経済学の内容のため抽象的な数式を用いることが多くなり、技術の習得とはマッチしない部分もあるので、関心を高めて知識を豊かにできるように工夫したい。グラフや数式で表されている経済モデルが、現実の市場ではどのようなことを意味しているのか、イメージしやすくなるような例話を用意したい。また、自由記述で、クイズ（Formsの問いと思われる）の回答を早くしてほしい旨の意見があった。講義の後の展開で使うために即座に回答を示さないことが多かったので、支障が無いものは早めに回答を示すなど工夫したい。
1119	現代東北社会論	"〇授業評価アンケートの結果からは、分かりやすさ・要点や内容・教材・目標設定など、概ねにおいて良好に捉えられているようですので、このまま継続していきたいと思います。
1120	社会の諸相	頂戴したご意見は全て肯定的なものばかりでしたので、このままの方式と水準を堅持していきたいと思います。万人受けする授業ではないことは自覚しておりますが、向学心のある学生さんの期待に沿えるよう精進して参ります。
1122	生命科学（食産）	授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。 【良かった点】（抜粋） 自分が興味を持ったことについて調べて書く課題が良かった。 外部の人を招いて授業をしてくれたこと。 【改善した方がよい点】 ・コメントの期限の短さ。 →（改善策）コメント提出期間を従来よりも長くするよう検討します。
1124	地球と宇宙	【よかった点の自由記載】（抜粋） ・先生が面白い先生で、今まで勉強したことない分野だったけど楽しく学ぶことができる。 ・とても楽しそうに話していて、気持ちよく受講することができた。テストの難易度も難しすぎず、適度だった。 ・適度に挟む雑談が面白く、毎回飽きずに90分授業に集中することができました。 → 講義の内容については、引き続き時事ニュースをとり入れるなど、できるだけ興味関心がわく内容を取り入れていきたいと考えます。講義録画を残すことが勉強意欲を高めることにつながるようですので、引き続き同様の形をとろうと思います。
1126	物理概論（食産）	少人数の開講であり、アクティブラーニングには適した環境であり、議論などを取り入れてきたが、今後はこれまでに実践できなかった簡単な実験なども取り入れていきたい。
1127	美術	学生からの意見の分析から、評価の高かったパワーポイントによるフルアニメーションのプレゼンテーションについては、より視認性を高めるかたちで、今年も引き続き行っていきます。また、授業外学習をできるだけしないでも、講義内での学習で、充分、美術史の基礎知識と全体像を把握できる授業を展開していきます。さらに、ハンドアウトにつきましては、これが「レジュメ」でも、「まとめのスライド」でもなく、フルアニメーションで展開している講義の一場面を、メモ用に提供していることを徹底させ、より、授業に集中して参加するよう求めていく所存です。

令和5年度後期 改善計画（基盤教育群）

通番	科目名	授業改善計画
1130	音楽演習	<p>授業計画、到達目標をより具体的に示し、目標到達への意欲を高め、到達感を得られるように努めたい。</p> <p>演奏実技、表現を主とする授業であるが、理論的な部分や教材を工夫するなどして、事前・事後学修で、音楽に対する理解を深められるようにしていきたい。</p> <p>可能な範囲で器楽や声楽の希望分野に対応したい。</p>
1132	日本の歴史と文化（食産）	<p>○授業計画や内容・教材等について、授業アンケートの結果では数値的には概ね肯定的に評価されているので、今後も大枠は維持していきたいと思います。</p> <p>○授業アンケートでは、歴史に対する苦手意識を克服し、授業の目的である「歴史を思考する」ことが出来ている方がいるようです。履修者みなさんの努力の結果なので、今後履修する皆さんにも引き継がれることを期待しますし、授業でもそれを可能とするようなフォローはしていきたいと思います。</p>
1133	健康科学（食産）	<p>よかった点、改善したほうがよい点等はあげられなかった。</p> <p>引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法を点検し、必要な改善を行う。事前・事後学修については、担当教員単位でより具体的な教示や声かけを行う。</p>
1134	スポーツ実技（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>感染症対策等のため制限される活動もありましたが、みなさんのご協力のおかげでほぼシラバス通りに進めることができました。自由記述の記載はありませんでしたが、ほぼ全ての項目が全学平均を上回っていたことや、レスポンスシートの内容、授業の様子等から、一定の満足度、学習効果が得られたものと考えています。</p> <p>今期は、シラバスや初回ガイダンスで説明した基準で予定通りの実技回数を確保することができましたが、年度によっては、様々な感染症の発生状況や気温等、安全な実技環境の確保が難しいこともありますので、仮に教室変更になった場合でも可能な限り体験型の実技要素を盛り込む等、次年度以降はさらに工夫していきたいと思います。</p>
1135	体を動かす楽しみ	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>感染症対策等のために制限される活動も多々ありましたが、授業評価アンケートでは肯定的な点として、●学生が楽しく活動できるように配慮されていた、●様々な競技を通して体を動かすことの楽しさに改めて気づくことができた、といった意見を多くいただきました。これらに加え、全項目で全学平均を上回ったことや、毎回提出のレスポンスシートの内容、授業の様子等から、一定の満足度、学習成果等が得られたものと思われます。特に、遊び要素のあるレクリエーション活動（アクティビティ）を通じて、運動能力レベルや障がいの有無などにかかわらず、工夫次第で誰でも一緒に楽しめることを多くの方に実感してもらえたことは科目担当者として嬉しく思っています。</p> <p>「改善すべき点」については記載はありませんでしたが、次年度以降も、体を動かすことには個々に合ったの動かし方、楽しみ方がることがしっかり伝わるよう工夫していきたいと考えています。</p>
1136	スポーツ科学（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>自由記述はありませんでしたが、受講したみなさんのレスポンスシートの内容、まとめレポート、さらに授業評価結果等から、シラバスの到達目標等は概ね達成できたかと思われます。本科目で取り上げた内容を今後の健康づくりにも活かしていただければ担当者としても嬉しいです。</p> <p>本学には文系、理系の方がいますので、レスポンスシートの内容等に基づき、かつ受講生の得意・苦手な分野も考慮しながら（シラバスの範囲で）毎回の内容を検討し、必要に応じて個別対応（補習的な内容、応用的な内容、リモート指導含む）を行っています。年度（文系、理系のバランス）によって専門的な内容になることもありますので、次年度以降も授業以外でサポートできる体制をより強化していきたいと考えています。</p>

令和5年度後期 改善計画（基盤教育群）

通番	科目名	授業改善計画
1137	福祉入門	<p>「福祉」とはなにか、なぜそのようになったのか、現在の福祉とはなにか、の概略を説明する授業である。詳しい事項については、専門毎に勉強してほしいと思うが、ここ20年間に急激に「社会福祉」が増加し、社会全体の「福祉」像が大きく変わったメカニズムについては詳しく説明した。今後も変わっていくだろうから、事柄も重要であるが、福祉の考え方をしっかり学べるようにしたい。また、遠隔であることによる制約はつきものであるもので、そのような制約が少しでもなくなるよう工夫をしていく必要がある。改善点で指摘のあるように、回線の安定については学生諸君にできるだけ電波状況の良い環境で受講してほしいと考える。また、チャットなどに気を配ってほしいという点については、そのような工夫をするように仕組みを考えたいと思う。</p>
1138	学外研修（ヨーロッパ（オランダ））	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者からのコメントは特になかったが、次年度は時間的にゆとりのある計画を組み立てたい。

令和5年度後期 改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2101	疫学Ⅱ	<p>学生からの意見などを踏まえて、以下の改善を検討したい。</p> <p>国家試験対策に関する内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回の小テストに加え、毎講義後の課題として国家試験に関連する問題を提示し、次回の講義で解答と解説を行なったが、講義中に講義内容に関する課題を提示し、その後に解答と解説を行うことも良いかもしれない。 <p>さらなる治験と新しい情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験と就職した先の職業人としての活躍を考えるとそれだけでないさらなる高度な講義内容も必要だと感じている。医療を取り巻く状況や日本における疾病の構造も変化しているため、常に新しい情報を提供する事としたい。
2102	代替療法	<p>講義科目ではあるが、体験を組み込みながら知識の提供、意見交換を行った。</p> <p>代替療法の知識について、実習での経験を踏まえて活用について検討ができた。授業で学んだことは、看護職としての健康管理や、卒業後の仕事に活かせる内容となった。</p> <p>学生の高い関心、積極的な学修態度により有意義な授業となった。</p> <p>引き続き、体験を組み込みながら、履修学生の関心を引き出し、授業展開を進めたい。</p>
2103	災害看護支援論	<p>本科目の回答平均値は大学全講義の平均値に比べると、全ての項目が上回っており、履修登録者の高い達成感や満足感が得られたことがわかる。今年度も例年と同様にゲスト講師を招聘したが、災害直後の被災地での活動経験を持つ災害看護の専門家数名を招き、対面授業で教授した。具体的には、災害時の精神医療活動であるDPAT看護師と医療活動を行うDMAT看護師、災害慢性期における実践家である精神科認定看護師を招いて講義を行っていただいたため、「知識や技術の習得・知的関心の喚起」の向上につながったと考えられる。本講義は4年後期に開講となるため、卒業後の自身のロールモデルとして捉えている可能性がある。そのため、知的関心の喚起の向上にもつながっていることが考えられる。講義テーマに関して、前期の救急・災害看護論と継続性を持たせ、前期の授業で既習の知識を演習などを通して理解を深め、実践力を高めることを目指した。今年度のフィールドワークは、例年と同様に、令和元年台風19号の被災地域でもある丸森町で被災者でもあり地域の防災活動に取り組む民生委員に現地での講話を依頼した。また、被災時の活動拠点でもある病院・避難所・仮設住宅での活動の実際について、活動経験のある看護師や保健師、職員から被災時の活動について講話いただき、グループワークを通して学びを深めることができた。現地での活動は新型コロナウイルス感染症拡大により、時間が限られていたが、得られた経験は印象深く、達成感や満足感が得られたと推測する。一方で、看護師国家試験の学習との両立がうまく行えないという理由から、最終レポートを提出できない学生が1名おり、単位修得につながらなかった（その他の講義演習にはすべて参加した）。4年生の学習状況をふまえ、可能な限り負担にならないような課題設定方法の検討が次年度に向けて必要であると考えた。</p>
2104	教職実践演習（養護教諭）	<p>養護教諭になるための学習の総まとめの位置付けになる科目です。</p> <p>これまで学んできた教職科目や養護に関する科目についての知識と、養護実習での経験を結びつけ、養護教諭としてどのような視点で子どもたちを育てていくのか、どのような部分に知識や経験の不足があるのかなど、受講学生一人ひとりが再確認していくことがこの演習のねらいになります。</p> <p>受講学生それぞれが養護実習で経験してきたことを共有し、養護実習を通してさらに深めたいと思った部分や不足していると感じた部分を補完していくことができる演習であるよう、今後とも受講学生のニーズに沿った演習展開をしていきたいと思います。</p>

令和5年度後期 改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2105	臨床心理学	<p>全ての評価項目が平均を上回っており適切に授業が運営されたと評価できる。主な自由記述の結果は以下であった。</p> <p>良かった点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまめに休憩があった。資料が分かりやすい。楽しい雰囲気。興味深い内容。全体的に楽しめる内容で、履修して良かった。 ・臨床現場、日常生活で早速習ったことを使うことができた。患者との関わり方を学べた。 ・実践形式のものが良かった。座学だったが、近くの人との話し合いの時間があり、楽しく授業を受けることができた点。 ・演習を通しながら学習することが出来た点。授業中に他の人の意見を聞いたりできるのが良かった。 ・授業内でわかりやすい例えでお話しをしてくださり、理解がより深まりました。90分飽きずに話を聞ける内容だった。
2106	形態機能学Ⅲ	<p>プリントが細かくてよくわからないことがあった。レジュメが見づらい。資料をもっとわかりやすくしてほしいです。授業資料の文字が小さくて見にくいので大きくしてほしい。回答：・初回に説明しているように主体的かつ論理的思考に基づく学修が大前提です。主体的に、授業中授業後などに、分かりづらい点や見辛い点などは具体的に指摘してください。質疑応答できますし、改善もできます。具体的に指摘がなくば対応しません。・WebClassに資料をアップしているので本来紙配布資料を提供する必要はないのですが、毎年数人かの要望があったので紙配布資料を提供しています。字が小さい場合などはWebClassのPDFを拡大することで対応できます。なお、字の大きさは基本28-24ポイント以上、一つにまとめる必要がある場合18-16ポイント以上にできるだけしています。通常のテキストは11や10.5ポイントが通常です。そして配布資料は授業の単なるプロジェクター用資料ではなく、学生が学習時何度も読み込むための資料、テキストです。単に図や字の大きさだけで、一つにすべき事をバラバラにすれば論理的な事柄が分裂しやすく、枚数も60~100枚と膨大になってしまいます。単なる暗記項目や飛び飛びの論理は提供しません。・資料は基本的に一度読めば済む資料（発表会資料はその典型 そのかわり丁寧な詳細説明はほとんどつけない）ではなく、何度も熟読し考察し自ら深く理解するための学修用の資料です。バラバラにせず1セットで学んで欲しい事柄、これまで学修した事柄と因果関係・関連性を踏まえた新たな情報を整理して1枚に収めます。これは資料の枚数を最小限にすることにもなります。・資料の枚数はかなり増えますが、俯瞰的な情報をばらして1枚あたり1つの事柄だけにし、さらに今まで通りの俯瞰的な資料を加えることができます。皆さんが思っている以上に学修すべき事は多いです。真面目に学習すれば教えないことで混乱しそうな点や疑問に思いそうな点も含め理解するために必要最小限の情報に絞っています。説明する事柄を減らして後は学生の自主性とすれば非常に非常に簡単な内容で一見分かりやすい授業になりますが、以前説明したように「分からないことが分からない」学生も出てきます。</p>

令和5年度後期 改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2107	薬理学	<p>難しい名前で一気に覚えることは難しかったが概要を理解することが大切なのだと学ぶことができました。</p> <p>形態機能学と関連づけながら学習を進めることが出来た点。</p> <p>プリントが細かくてよくわからないことがあった。</p> <p>後半、図が細かくて見にくかったです。ページを4つではなく2つでも良いので大きくしてほしいと思いました。</p> <p>レジュメが見づらい。</p> <p>資料をもっとわかりやすくしてほしいです。</p> <p>内容が発展的で理解しにくいように感じた。</p> <p>授業資料の文字が小さくて見にくいため大きくしてほしい</p> <p>回答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず主体的に具体的な要望をしかるべき時にだしていただければ、その場で相談して対応します。具体的に要望を講義後などに出した学生は、主体性に欠け残念です。 ・まずただ暗記することだけを勉強したり、飛躍した飛び飛びの論理性を「わかった」と思い込まないように注意してください。 ・本来、WebClassにPDFをアップしているため紙配布資料は無くてもいいのですが、希望があったので紙配布資料を提供しています。WebClassにPDFをアップしてからですから文字が小さい場合は拡大もできます。資料は授業のスライド用ではなく、自分で学習するときの資料です。通常の教科書（通常、大きくても11ポイントが多い。見えてますよね。）と比べかなり字の大きさもあります。基本28ポイント以上で、どうしても1つにまとめる必要がある場合に18ポイント以上、やむなくそれより小さい場合もあります。次の字の大きさのみでなく、論理性のまとまりなく1枚ずつに内容をバラバラにすると60、いや100スライドになり非常に厚く重い資料になります。
2108	栄養学	<p>2022年度では、事前・事後学修時間が1時間に満たなく、要点整理も自学修において困難との意見があったことから、2023年度では毎回の授業の要点をまとめる確認学修ができるようなショートエクササイズ等をTeamsを利用して課した。2023年度では、1時間を超えて、事前・事後学修時間に取り組むようになった。また、ショートエクササイズへの回答をもって、出席を確認することができ、スムーズな授業運営が可能になった。</p> <p>今後もショートエクササイズを取り入れ、内容についても充実させる。</p>
2109	公衆衛生学	<p>学生の意見などを踏まえて、以下の改善を検討したい。</p> <p>学生のモチベーション向上のための対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の講義の講義であるため、知識の伝達と同じように学生が学習への意欲を高めることが重要である。そのための対策として、外部の講師を招聘し、病院だけではなく様々な場所で看護師は必要とされていることを伝え、自身のキャリアを考えるきっかけとしての機能をこの講義が持つようになることを考えたい。 <p>講義内容の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学は広範囲にわたる分野であり、教科書のボリュームも大きい。講義の途中で小テストを取り入れるなどの対策を考えたことはあるが、小テストと解説に時間を使ってしまうと講義範囲の解説が難しくなってしまう可能性があり、小テストを断念したことがある。そのため、課題の提示と解説の比重を高くすることを検討したい。 ・講義内容は年によって更新される部分もあるため、常に新しい情報を提示する事を心がける。

令和5年度後期 改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2110	疫学Ⅰ	<p>学生からの意見などを踏まえて、以下の改善を検討したい。</p> <p>内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかりにくい」「難しい」などの感想を聞くことが多いため、なるべく平易な表現を利用しつつ、解説に努めることが重要であると認識している。他の医学や看護学と異なる考え方もあるため、考え方の伝授も重要であると考え。 <p>学生との相互関係の構築の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前項とも関連するが、学生がわからない部分を指摘し、それに対する解説を行うことができるようなプラットフォームの利用を検討する。わからないまま終わるよりは時間がかかっても理解できることの方が重要であること、わからない部分は個人によって異なる可能性があることが、その理由である。
2111	疾病論Ⅲ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
2112	看護実践論	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業の評価は、すべての項目において全学平均と同程度のものでした。この科目は、これまでの看護技術各論演習の事後学習課題でも行っていたリフレクション（振り返り）のスキルを理論として段階的に学び、演習を通して実践し、最終レポートを作成することでリフレクションサイクルを完了するという方法で運営しました。履修学生にとっては知識を覚えるという授業ではなく、自分の内面と向き合い（内省し）、自分の中で実践行為を意味づける、つまり万人に共通する答えがないものを考えるという難しさがあったと思います。 ・改善した方がよい点として、「課題で何をすればいいのか、どのように書けばいいのか説明が足りなくて、毎回課題に取り組みながら自分は何をしているのか分からなかった。」という意見がありました。授業では毎回、レスポンスカードを提出してもらい、グループ学習では教員を配置していつでも質問に対応できる環境を整えていました。学習には、わからないのあれば質問する、何を求められているのかを自分でよく考えるという、主体的な取り組みが必要です。教員も教育実践についてリフレクションしながらよりよい教育活動の改善に向けて取り組んでいきますが、学生の皆さんも自分自身の授業への取り組みについてリフレクションし、学習者としてのあり方についても考えることを期待しています。 ・最後の授業でも、この評価にはない改善に向けてのコメントをもらいました。この科目は学生の主体的、積極的な関与が不可欠な授業です。次年度は、学生の主体的な取り組みをどのように喚起し、授業にコミットできるかをリフレクションシートの変更、事前提示資料の検討を通して取り組んでいきます。

令和5年度後期 改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2113	ライフステージ看護学概論Ⅰ	<p>本授業では、小児期、成人期、老年期の各ライフステージにある人の特徴と健康や生活について学修しました。その後、それらを統合して深めるために、ライフステージ各期を経験した方々(泉区住民の方々)との交流、グループワークで、健康と暮らしについて意見交換を行いレポートをまとめました。</p> <p>概ねの学生は、各ライフステージの特徴を理解し、ワークでの具体例につなげて考察を深めることができていました。授業の目標を達成することができており、講義とワークによる授業構成は、今後も継続していきます。</p> <p>授業評価の記述意見について、コメントを記載します。</p> <p>意見①午後の眠い時間と先生の優しい声で眠くなったので、途中1分でも休憩を入れてほしいと思った。</p> <p>コメント①眠けが避けがたい時間帯がありますね。休憩やワークを取り入れたいと思います。</p> <p>意見②地域の方にお話を聞く回が非常に勉強になりました。2件</p> <p>コメント②ライフステージ各期の知識を統合するワークの意義をしっかりと捉えてもらい、嬉しく思います。</p> <p>意見③領域別の看護についても意識を向けることができました。</p> <p>コメント③ライフステージと看護関連は、2-3年生の複数科目につながります。そして、領域実習にて知識を看護実践に活かしていきます。1年生からの学習意欲の継続を応援します。</p>
2114	家族看護論	<p>家族の苦悩の劇作成について賛否両論のご意見がありました。楽しく学べたという意見がある一方、何のために演じるのか用やんが分からなかったという意見がありました。今後の家族看護論の授業については、苦悩の劇作成についてその学習効果について再検討し、家族看護について学ぶ要点についてより明確にするように改善いたします。</p>
2115	災害活動論	<p>選択科目であり、授業外の学習時間以外は、全授業の平均値よりも上回っており、関心を持って履修し、学習に取り組まれていたと思います。外部講師からの講義や、演習でも地域の方や科目担当教員以外の教員とも関わり、協働しながら学習する体験もできていたと思います。実習記載で、学びが深まったと記載されていることや、授業評価でも評価が良かった点を活かしつつ、さらに理解や思考が深められる学習になるように、振り返りの記録やレポート課題等、検討していきたいと思っています。</p>
2116	看護英語	<p>本科目は、R5年に初めて開講する科目でした。そのために、教員自身に不慣れな点や、十分な説明が行き届いていない部分があったかと思っています。看護英語の科目については、実践に役立つものを望んでいたという意見をいただきましたが、本科目の目標は、即看護実践に役立つものというよりは、「英語で看護を探究し学習する姿勢・態度を培う」ことを目指しています。この点についても、科目の目標等を十分にお伝えできていなかったことが考えられましたので、今後は、授業の最初だけでなく、折に触れて、この科目の目指すところについて、履修生と教員とで共有し、目標は何であるのかを確認しながら、授業を進めていきたいと思っています。また、実践的なことについては、3年次に開講している「実践看護英語演習」があるので、その科目で実践的な部分をより学ぶことができます。</p>

令和5年度後期 改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2117	看護技術論	<p>・看護技術論は、専門看護職が用いる思考過程を学ぶ（Think like a nurse）という、これから学びを進めるうえで大変重要な科目です。この科目では、問いを自分で見出し、手がかりから答えを生み出していくことが求められます。そのため、論理的思考、疑問を自分で調べたり質問したりすることなどスタートアップセミナーなどで培った力を積極的に発揮していく必要があります。専門科目の学習が始まったばかりなので、これまでの科目との違いに戸惑うことも多かったと思います。</p> <p>・そのために、講義資料ではできる限り具体的、かつ詳細に作成するように心がけています。ただ、そのためにどうしても資料が多くなってしまいうというデメリットもあります。今年は講義の前半のできるだけ早い時期に資料を配布し、いつでも使用できるように配慮しました。また、課題を一つの事例について繰り返し検討したり修正したりする形にする、講義前半で課題についての解説や学生の解答状況に応じて補足説明を入れるようにしました。アンケートでは資料や課題を通じて理解が深められたとの回答がありましたので、今後も継続したいと思います。</p> <p>・アンケートで「アセスメントの仕方が分からなかったので書き方の例示が欲しい」との意見もありましたが、例示が役に立つのは書き方が分からない場合に限られます。わからない場合はそのままにするのではなく、資料をよく読み、講義と照らし合わせ、自分から質問する、という能動的な学習態度も身に着けていってほしいと考えています。アセスメントは看護過程の肝ですので、資料や課題の内容について、さらに検討を行いたいと思います。</p>
2118	看護技術各論Ⅰ	<p>本科目の授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、評価は良好でした。自由記述でも授業内容の分かりやすさや演習につながる知識を学ぶことができた等、良いコメントをいただきました。今後も分かりやすい講義となるよう工夫し、関連科目である看護技術各論演習Ⅰでの看護技術の理解や習得につながるように授業計画・運営に取り組んでいきます。</p>
2119	看護技術各論演習Ⅰ	<p>本科目の授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、評価は良好でした。また、授業外の学習時間も全学の平均値よりも2時間以上も上回っており、皆さんが演習の事前・事後課題や技術練習に取り組んでいたことが伺えました。一方で、自由記述にもありましたように、「事前学習をしなくてはならないのが良かった」とのコメントがあった反面、「事前課題は本当にいらないと思います」とのコメントもありました。大学での授業は「1単位」の中に、「授業時間」だけではなく「事前・事後学修時間」も含まれ、必要な学習時間となります。また、看護技術を習得するためには基本的な知識が必要不可欠であり、何も学習せずに演習に参加しても技術の習得につながりません。演習で事前学習を活用して学びを深められるように、工夫しながら学習をすすめてほしいと思います。</p>
2120	母性看護援助論Ⅰ	<p>母性看護援助論Ⅰは、妊娠期・分娩期における母子と家族の健康課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、ほぼ全ての項目について全授業の平均値を上回っており、皆さんが大変熱心に当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「知識や技術の習得・知的関心の喚起」「授業マナー遵守への配慮」「授業の要点・内容の整理」は高得点が得られました。当科目が特に重きを置くDPは「知識・技術」ですので、ねらい通りに皆さんが学ぶことができたのではないかと嬉しく思います。自由記載欄には「資料はとても見やすかった。同じ内容が何回も出て復習できた」との意見もみられ、教材と説明の適切性についても満足いただける内容だったことがうかがえました。また、「（生殖医療をめぐる）ディベートがあったことで理解しようとする姿勢が深まった」との感想も見られ、このディベートをめぐる皆さんが主体的に学習したことが読み取れました。知識・技術の習得にとどまらず理解しようとする姿勢や知的好奇心が満たされる経験をした学生がいたことをとても喜ばしく思います。</p> <p>一方、改善点として、テストが難しすぎる、授業の最初にテストの形式を教えてほしかったなど、テストに関する意見もいただきました。期末テストの問題は全て授業で教授した内容をもとに作成されており、毎回の授業後には小テストを実施して期末テストにつながる学習を促してはいたのですが、その意識づけが十分でなかった可能性があります。テストの形式を教えることについても、何をどの程度までお伝えすると良いかなど難しい面がありますが、皆さんの学習の動機づけにつながる教育の方向性を今後検討してまいります。貴重なご意見をどうもありがとうございました。</p>

令和5年度後期 改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2121	小児看護援助論Ⅰ	引き続き、講義・演習の内容・方法の検討を行い、学生のみなさんの小児看護学の理解の促進や看護技術の習得につながるよう工夫をしていきたいと考えています。
2122	精神看護援助論Ⅰ	ゲスト講師の時など、精神的につらい思いをしながら授業に参加している方もいましたので、今後は、学生の精神面への配慮を十分に行い、辛いと感じたときには教室を出て休息が取れるように、事前のアナウンスを行いたいと思います。 クリスマスの日にテストがあったことで気持ちが鬱になったという意見がありましたが、授業はあらかじめ示してある、学年暦や時間割に沿って行います。看護職においては、将来、クリスマスの日のみならず、元旦に仕事をすることもあり、プロフェッショナルとして避けられないこともありますので、その都度、訓練だと思って、乗り越えていきましょう。また、鬱な気持ちを、クラスメートと分かち合ったりすることで、乗り越えやすくなります。
2123	在宅看護援助論Ⅰ	令和5年度は、半分以上の回で復習テストを行ったり、課題にも取り組んでもらいましたが、確実に取り組んでいた皆さんは、筆記試験や全体の成績評価で、高い水準の到達度につながったようです。後期の金曜日の5限で必修科目が続いての最後の授業のためか、体調不良等での欠席が多くありました。欠席した回は、自己学習が大事になりますので、講義資料や、教科書などをフルに活用して学習してもらおうと良いと思います。今後も、令和5年度の復習テストのように皆さんが効果的に学習できる教材の工夫や検討をしていきたいと思います。
2124	教育課程論	引き続き、事前・事後学修の方法についてレクチャーを行うことを意識したい。また、指導案作成をはじめとする実践的な内容を入れ込むことで、養護教教育課程の学生にとって他人事になりやすい新学習指導要領や近年の教育課程編成をめぐる課題についての学習を進めていくことにする。

令和5年度後期 改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3101	ロジスティクス	授業アンケートの「授業マナー遵守への配慮」は全授業の平均値を上回ったものの、全般的に全事業の平均値を下回った。特に「授業外の学習時間」は全授業の平均値の3分の1であった。これを改善するため、資料の事前配布や予習・復習の必要性の喚起をすることとする。
3103	交通計画	・講義で取り上げるテーマについて告知し、自分事として事前学習を行った上で講義を聴けるよう、また、講義中の問いかけを増やすなど、さらなる工夫を考えたい。
3108	水理学	今回で閉講となる科目であるが、類似科目について、水理学を使ったダム等の水利施設見学を組み合わせ、学生の理解を深化させることに努めていきたい。
3109	構造力学Ⅱ	非常勤講師の権代先生による科目でしたが、限られた時間の中で、履修者の皆さんが権代先生と対話しながら授業内容を理解しようと努力したようすがうかがえました。引き続き同様の科目運営がなされるよう、努めます。
3113	地盤工学	特になし。今後も実験、実習と座学を組み合わせ講義を進めていきたい。
3117	情報サービスデザインⅡ	「グループワークで人によって仕事量や取り組み量にかなり差が見られる」というコメントがあった。共同作業において手を抜く学生がいると、同じグループの学生は確かに面白くないはずである。しかしそのあたりは教員も確認して、評価で差をつけている。難しいかもしれないが、他人は他人、自分は自分と割り切ってほしい。 この科目はこれで閉講する。これまでの受講者諸君に感謝する。新カリキュラムの情報サービスデザインでは、内容を一新する予定である。
3118	空間情報コンピューティング	【良かった点（自由意見抜粋）】 ・新しい技術に関して知ることができた点。 【改善すべき点（自由意見抜粋）】 ・記載なし 【来年度の授業改善について】 ・授業評価アンケートの評価点については、ほとんどの項目で全学平均を上回る結果となっており、授業内容は概ね良好な状況にあると考える。一方、到達度に関する項目が昨年に比べてやや低下している傾向が認められ、学生の学修レベルに応じたレベル調整を進める。自由意見では新技術を知ることができた点が記載されており、今後も学生がより興味をもち主体的に学ぶことができるよう、最新技術に関わる情報提供と演習課題の充実にも努めていきたい。
3124	地域創生基礎	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 本科目では、地域創生学類について知ることができた、多くの教員が担当することで学びが多かった、学類の内容をある程度イメージすることができたなどの意見を頂くことを目的としています。引き続き、地域創生とは何かを紐解く講義内容を目指して、より一層本学類の3本柱である「地域アントレプレナー系」「地域政策・公共系」「地域環境・計画系」に対する理解を深めてもらえるよう教員一丸となってわかりやすくかつ有意義な講義を心掛けたいと思います。
3125	地域活性化とビジネス	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・本科目は、各回地域創生学類の所属教員とその分野の外部講師をお招きして、講義と対談形式を通じて当該分野の理解を深めることを目的としています。各分野の難しい話題であっても、沢山の外部講師の講義を受けることができ、様々な知識を学ぶ事ができました。地域での問題点やビジネスについての様々なことを、多くの先生から学ぶことができ、視点が広がった。地域に関したことをたくさん知れた。いろいろ考えるきっかけになった。などの意見を頂きました。引き続き、到達目標の達成に向けて講義内容の拡充をはかり、有意義な講義を心掛けたいと思います。 ・本講義は1年生を対象としており、講義内では多くの専門用語が用いられています。当該分野の教員が各回担当し対談することによって、語句の簡略化や現場でのジレンマについて深い議論にまで及ぶことが可能となります。本科目の到達目標を念頭に、受講生一人一人がより一層深い知見を有した上で提案や構築、今後の展望について説明できるよう尽力していきたいと考えています。
3126	イノベーションデザイン特別演習I	フィールドワークの日程は早めに決定し告知する。
3128	事業構想特別講義Ⅱ	2回行うフィールドワークは、回数を増やすのではなく、考慮時間が長くなるように、配慮したワークの設定を行い、学外で学修時間の確保を図るようになります。
3129	事業構想特別講義Ⅲ	データ分析が有効な身近な事例も取り上げる。

令和5年度後期 改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3131	スタートアップ経営論	アントレプレナーシップの講義回については、テキストを読んだのグループディスカッションを行った。難しいとの声もあったが、内容が新鮮だったとのレポートもあったので、本年も引き続きグループワークを活用しながら講義を行っていきたい
3132	社会調査法	課題の多さなどから課題をこなすことが大変であったと思われます。初回講義で説明はしましたが、2回目以降から履修登録の変更などをして来られた方々にも充分周知をはかります。レポート課題の内容などから学修到達度は比較的良好ではないかと推察されますが、よりわかりやすく満足度の高い授業を目指します。
3134	数理計画	・授業中の演習の際に、質問対応や受講生同士での相談の時間を増やしたい。 ・課題のフィードバックに時間を要したため、早期フィードバックに努めたい。
3139	経営組織論	2年後期の専門領域の最重要基幹科目として、展開科目への基礎として位置づけられる。授業内容、評価方法については、基本的な変更を予定していない。可能な限り最新理論、事例、教育メソッドを導入して、大学生が本来求められる知的好奇心を喚起して、学生自身が主体的に学習行動を選択するような授業の実施を志向する。本年度も、第1回授業において、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」「評価方法」「評価基準」を配布して確認を指示したものの、一部学生が指示に従わず、再三再四の注意にもかかわらず、一方的な責任転嫁をする学生も確認しているので、教務事務とも相談し協力を仰いで対処していきたい。3年以降の「就職活動」の理論的支援に際して、学生の意欲、ニーズに差異があるため、より慎重に考慮（抑制・低減）する。事前の「内容を体系化したレジュメを作成する」、事後の「疑問点が解消されたのかを確認する」は、なかなか予定通りに機能しないため、毎回、最初と最後で周知徹底する（各々3分程度）。大学の専門科目であることを強調しているにもかかわらず、不見識な態度、発言、欠席など、学問に対する真摯な取り組みへの逆機能となる事象については、教務担当教員を通じて、学群全体の問題として提起、対応する。
3141	ソーシャルビジネスプロデュース	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 この授業の良かった点として、地域で実践している人から直接抗議を受けられて、多くの刺激を得ることが出来た、実際に現場で活躍する先生から、企画について詳しいお話を聞いた点、外部の実際に地域の前線で活躍している人に理論プラス実際に現場での知見や用いてる資料を交えながらの講義が良かった等のご意見をいただきました。 講義の内容として理論と実践を兼ね備えている点については、特に履修生からの評価が高かったため、引き続き、理論的な話題と現場で実践されていることのバランスに配慮しつつ、充実した講義を目指していきたくと考えています。
3142	公共経営（地方自治）	学外の非常勤講師による講義について、実践的な話が聞けて良かったとの意見があり、理論と実務実践とのより最適かつバランスの取れた内容構成で講義体制を構築することを目指すこととする。
3143	コミュニティビジネス（コミュニティ創造）	事例検討を中心として、学生たちが主体的にコミュニティビジネスの事業を考える機会を引き続き提供していきたい。事業計画書の作り方についてもやや丁寧に作成の流れを説明できるように、さらなる工夫を行って行きたい。
3144	地域分析学	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・実践的な課題もあり、知意識を応用に繋がられた。都市計画に関連する内容も多かったので、地域の学生に混ざって履修しておいてよかったと思う。などの意見を頂きました。引き続き、地域を分析するためのさまざまな見方や手法について、わかりやすくかつ有意義な講義を心掛けたいと思います。 ・本講義では一部外部講師をお招きしており、多様な業種の方々から地域の見方について講義して頂きました。そのため、最先端の状況について知ることができた、将来の視野が広がったとの感想がありました。このような方法が、受講生の新たな地域の見方や視野の広がりにつながったと思われます。引き続き、より実践的な学びと理解を深められるようにしていきたいと考えます。

令和5年度後期 改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3145	都市計画	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <p>・とにかくわかりやすかったです。授業の最初に前回の復習があったのが特に良かったです。基本的な理論から実際の街づくりの例などを学ぶことができたこと。身近な話題も多く、より都市計画に興味を持つことができた。といった意見を頂きました。引き続き、自身の日常生活にも繋がる都市計画について、わかりやすくかつその魅力をこれまで以上に伝えられるような講義を心掛けたいと思います。</p> <p>・講義の初めに、前回の復習（要点をまとめた）確認テストの作業時間を設けました。この作業により、当日の講義の振り返りやポイントを再確認するとともに、より深い理解と学びを目指しました。この方法について、毎回講義内で復習できるので理解できたところ、見返しや必要なところを明確にできた。前回の授業の復習をしてから今回の内容に入るので、授業内容の理解がより深まったと思います。との意見を得ています。引き続き、より実践的な学びと復習、要点を整理し、理解度および定着度が深まるよう努めていきたいと考えます。</p>
3146	地域プロジェクトマネジメント	<p>アンケート結果は概ね好評だった。もっと長く学びたいという意見もあり、今後、開講方法について検討していきたい。</p>
3147	地域資源論	<p>講義内容に関しては、平均値を越えており、良好な改善結果を得ることが出来ている。記述をみても、オリジナルのワークシートを用いた企画検討などアイデア創出の部分に充実感が得られていることがわかった。一方で、事前・事後学修には課題を残しており、文献の提示だけでなく、具体のワークなどを提供すべく改善を図りたい。なお、記述には改善箇所の明記も1点あったが、それは「感想等が必ずしも手書きである必要はないと思う。パソコンの方が楽。」というものであった。これを今後の検討課題としたいが、一部分はPCでの入力を導入したいと考えるものの、アイデアを創出するシステム図の作成など手書きで構想すべきものもあり、また、昨年度はChatGPTの登場もあって、慎重な改善対応が必須でもあると感じている。</p>
3148	地域社会学	<p>" 授業評価アンケートの結果から、映像資料、映像教材等を多用することで理解を深め印象に残りやすく、更にこれらの資料、教材を踏まえて議論を行うことにより、通常の講義形態よりも、より多くの考える機会を与える講義にすることができたことがわかる。 また、対面講義でありながらも遠隔システムを併用して活用したことにより、チャット等にて意見発表の機会を与えることで多くの学生が意見を出し、その内容により他の学生が参考にしたり新たな考えを導き出す一助になったと考えられる。</p>
3149	マクロ経済学	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <p>・この授業の良かった点として、難しい教科書からポイントを抽出されており割とわかりやすかったです、プリントが簡潔にまとめられていて復習に便利でした、講義時にもらえる資料が完結にまとめられていて、わかりやすかった、講義と問題演習を授業内にして頂いたので覚えやすかったです等の意見・感想を得ております。ポイントの抽出、プリント（資料）の内容、講義の進め方については学生の評価は高いものであったと思われます。引き続き、わかりやすい講義を目指して、配布する資料やプリントは、大切な部分をより簡潔に、わかりやすく作成することを心掛けたいと思います。</p> <p>・改善したほうがよい点として、ホワイトボードに書いている文字が非常に見にくかったです、字が小さくて一番前でも見えない、字が読みにくかった等、ホワイトボードを使用する際の文字の見え方に関する意見が多く挙がりました。講義室の大きさも考慮しながら、文字の大きさといった読みやすさについて配慮・工夫していきたいと考えています。</p>

令和5年度後期 改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3150	環境地理学	<p>【よかった点の自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GISがはじめてで、不安があっても先生がその気持ちに寄り添いながら丁寧に説明をしてくださいました ・先生が楽しそうに聞いていて面白かった。進度や難易度がちょうどよかった。 ・演習と講義を交互にやっていて楽しかったです。QGISは最初難しかったですができるようになると楽しくなってきました。 ・QGISを使うことができよかったです。座学と演習の両方を学ぶことができ有意義な講義だったと感じています。 ・資料の下に図があり、それを参考にすることができたため、テストの勉強前に役立った。 <p>→ 講義の内容については、できるだけ身近な内容を取り入れるなど興味関心を高める工夫をしていきたいと考えます。講義と演習の実践が好評だったようですので、引き続き同様の形をとろうと思います。</p> <p>【改善したほうがよい点】特になし</p> <p>【その他、意見、感想、要望など】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストの時にパソコン上で資料を見ている人がいた。もう少し徹底した監視をするべきだと思った。 ・衛星を使った地理学を学ぶことができ、地域の特徴と地形を上空から眺める視点を持つことができたと感じます。 ・オンデマンド授業やオンライン授業の併用によって学生も授業に参加しやすかったと感じています。 <p>→ 引き続き講義動画を残して復習しやすい環境を用意したいと思います。不正行為については、それがないようにTAを雇用するなどして対応したいと思います。</p>
3151	経営組織論	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業の良かった点として、様々な分野で活躍する実践者のお話を聞いたことが良かった、様々なゲスト講師のお話を聞いて貴重な体験となりました、自分で好きなNPOをピックアップして、その日に習ったことについて調べることが良かった等の意見・感想を得ており、講義内容や方法については学生の満足度・評価は高いものであったことが確認されました。ゲスト講師の方をお招きして、より実践的な講義内容するなど、引き続き、日常生活にも繋がるNPOの存在についてわかりやすくかつその魅力をこれまで以上に伝えられるような講義を心掛けたいと思います。 ・改善したほうがよい点として、文章だけのスライドに講師の方がひたすら話続ける講義で、なかなか頭に入って来づらかった。との意見もいただきました。今後、可能な限りスライドの作成方法（図や写真の多用等）を工夫していきたいと考えています。
3153	コンピュータアルゴリズム	<p>授業評価に寄せられた意見として、授業進行が少し速かった、アルゴリズムの説明についてわかりにくい部分があった旨のフィードバックをいただいています。進行については適宜間いかけをして調整し、比較的難易度の高いアルゴリズムについては解説や事後課題を充実させます。授業外の学習時間に関して事前・事後学修やレポートにおいて難易度を適切に設定した練習問題を増やすなどさらなる改善を進めていきます。</p>
3154	ウェブプログラミング	<p>授業評価より、丁寧さやわかりやすさはある程度達成できたと考える。資料がわかりやすいとの意見があったので、資料配布方法は踏襲する。</p>
3158	建築計画	<p>アンケート反応値が全授業の平均値に対して総じて低調であったので、特に学生が能動的に学べるよう、授業にインタラクティブ性を採り入れるよう改善したい。</p>
3160	コミュニティ・プランナー実践論	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・プランナー（CP）科目は、CP概論及び演習（2年前期）・CP実践論（2年前期）・CPFW演習（3年）で構成され、本講義は中間に位置する。2023年度における講義においても、実践者によるレクチャー、学外でのサイトビジット、グループワークを実施することができ、到達目標を達成することができた。次年度以降も上記のプロセスを基礎として講義計画を設計する。 ・本講義では、連携する自治体等との綿密な関係性が求められており、次年度もこれまで通りの協力関係が得られるよう、講義準備に努めたい。
3161	ボランティア論	<p>座学での理論的な講義だけでなく、学外でのフィールドワークや学びを深めるためのワークショップ形式の授業なども実施し、よりボランティアに関して理解を深め自分事として捉えられる講義形態を取ることができた。こうした点を踏まえると共に、少人数の講義形態の特性を生かし、発言機会を多く持てるようにすることで、より良く深く考えられるような講義の実施を目指すこととする。</p>

令和5年度後期 改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4105	付加価値植物性食材生産法	旧カリ科目で次年度は開講保証となり、少人数での集中講義となる。そのため、同期に開講する付加価値植物性食材生産実験実習の内容と関連づけるなどして、短期間で高い学修効果が得られるようにする。 分野ごとの改善としては、病害虫防除分野では、実験実習科目で扱う生物防除技術に重点を置いて解説する。新育種技術（NPBT）ではゲノム編集の原理と実際について、最新の社会実装例を挙げて紹介する。育種技術（水稲）分野では宮城県および他県の水稲付加価値戦略に関して事例学習を行う。それぞれの戦略の根底となる専門知識の理解に努める。また、講義時間中に習得した専門知識に基づいたグループディスカッションを行い、知識の活用を促す。
4111	付加価値植物性食材生産実験実習	旧カリ科目で次年度は開講保証となり、少人数での集中講義となる。そのため、受講生が短期間で主体的に計画・実施できるように、実習内容を工夫する。 病害虫分野では、試料採取から昆虫病原菌分離・同定までを個人で実施できるように期間設定する。新育種技術では、ゲノム編集作物のDNA解析を丁寧に解説するとともに、ゲノム編集食品の食味試験などを行い付加価値を理解できるようにする。水稲分野では、宮城県ブランド品種を対象として、それら品種の特徴や付加価値を説明できる知識習得と、実験により科学的に評価・分析するスキルの向上を目標とする。
4114	食産業政策論	社会に出てからの実践で役に立つことを目指して、行政機関が作成している実際の政策説明資料を参考資料として授業で用いています。文字数が多く、読む負担が強く感じることもあると思いますので、最低限読む必要があるところを分かり易く説明するようにしてゆきます。
4117	発酵食品・醸造学	<ul style="list-style-type: none"> 概ね理解度は進んでいた。しかし、予習が不十分であったので、レポートの課題を増やして、予習・復習の指導を徹底したい。 改善点に学生から「就活等の予定に対する配慮がない」と指摘されたが、就職活動は個人の活動である。キャリアセンターにも抗議したい。
4119	食品マーケティング演習	演習のため、講義は学生自身が手を動かして実践し、教員はそれをサポートしながら取り組むことから、対面での実施は非常に効果的であった。企業との産学連携を行いながら実践的な食品マーケティングを学べる本講義については学生から好評であった。今後も実践的な食品マーケティングの学びを学生が習得できるよう講義内容を工夫していきたい。
4120	食品企業経営戦略演習	前週に配布する教材を各自が事前に予習して参加するため、必然的に予習時間は一定量が必要になります。 毎回のケースが異なりますが、常に前回のケースでの理解を踏まえて一段上の分析が求められ、結局、毎回毎回の積み重ねを十分に要求される演習です。2023年度は「あらゆる企業の見方ができた上に、実際の事例を用いたことで、イメージがしやすかった」というコメントが出てきました。また、昨年度は、「この講義に向けて大学生になって一番しっかりと勉強しました。」「企業経営の状態を様々な指標を基に分析し、そのデータから自分で考察することの大切さを学ぶことができました。」というコメントが出ていたことを記しておきます。 クラス規模は概ね適正であり、ほぼ全員が複数回の発言を求められます。標準的な準備を行う学生はこのクラスを終了した段階で概ね大学ノート1冊を終了することが多いので、このレベルを維持していく予定です。2024年度後期も可能な限りこの演習は対面型で実施することに加え、新しいタイプのケース演習を追加する予定です。
4121	食品経済・政策論演習	今回の授業では前半・後半ともにフードシステム上の課題解決型であり、授業時間中に演習を行う形であった。そのためか自宅学習の時間が少なくなってしまった。今後は、食産業を調査にあたって、WEBにある情報の取捨選択、統計に関するExcelの処理、グラフ化などこれまで学んだIoTや統計学的知識を駆使して行い、また、統計利用で注意すべき点など扱える題材を選んで授業を進めるなど時間外での学習時間が確保できるよう工夫していきたい。

令和5年度後期 改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4122	食品栄養・機能学実験	食品栄養・機能学実験では、マウスを用いて実験実習を行うため、動物の取り扱いが難しいと感じた学生も多かったようであるが、実習を重ねることにより改善された。また、班メンバーが協働で動物飼育・解剖・分析を真剣に取り組み、結果を取りまとめて十分な考察を行うことができ、学修到達目標は達成できたと考える。今年度は、班メンバー間で相互にサポートして協働で動物実験や分析を行い、十分に検討・考察され、真剣かつ和やかに実習が遂行され有意義であった。まとめのプレゼンテーションにおいても、関連文献や資料を十分に調べた上での考察が示され、また、ほぼ全員に質問や意見を述べてもらう質疑応答も行われて、充実した内容となった。 本実験実習は、動物を扱うことや学生にとって初めての手技手法を学ぶ機会が多いことから、難しく感じられると思うので、さらに分かりやすい説明や資料作成を心がけたい。
4123	食品化学実験	予習が不十分であったので、試薬調製やレポートの書き方などができていない。 予習・復習の仕方などの指導を徹底したい。 来年度以降は、より実践の研究に近い高度な実験を行うように改善する。
4124	グローバルフードシステム論	グローバルフードシステム論では、まず国際貿易の経済理論についての学修をしてもらう必要があり、その理論の要が「比較優位理論」であり、さらにそれを一般化した「ヘクシャーオーリンの定理」である。これらは公務員試験に頻出のものなので、理解し問題が解けるまでに習熟する必要がある。またそのレベルにまで上げるよう授業では工夫している。とくに問題を特に当たっては、その場で描いた図から解答を求めている。それは考える過程をしっかりと体験してほしいと考えるからである。また、後半の世界貿易の現状については、川島先生が課題を与えての演習形式での講義で学生としても考える機会としてとても評判がよい。
4125	経済経営学基礎	「少し難しかった」とのことなので、よりわかりやすくなるよう授業を改善していきたい。
4127	フードマネジメント概論	本授業はフードマネジメントという分野の入門を目的としたものである。フードマネジメント学類の各教員が自分の専門とする分野を1コマずつ講義することでフードマネジメントの各論について知ってもらい学類選択・研究室選択につなげてもらうものである。フードに進学したいと学生の皆さんのみならず生物生産に進学を考えている学生の皆さんにも、同じフードシステムにある分野としてフードマネジメント学類の先生方の多種多様な関心を知り、また興味や関心を広げてもらいたいと考えています。先生方も入門ということで興味の持つような内容での講義をおこなっています。コメントにあることですが、欠席に関しては授業担当の先生に連絡するようにはしていただければと思います。先生方の連絡先は大学のHPに掲載されています。
4129	食材生産・加工実習Ⅱ①	・実習人数が多いため、個々人に対する十分なケアを行えていない点は改善の必要がある。 ・レポートの分量、採点基準をさらに明確にする必要がある。
4130	食品マーケティング基礎	学習範囲が幅広いことから中間試験を設けたが、そのタイミングと最終試験との関連について改善の声があがったため、次年度からは日程の修正および試験内容に関する説明をより丁寧に行うことで改善を図る。また、講義内での食品マーケティングに関する最新の事例共有については好評だったため引き続き重点的に取り組み、学生の食品マーケティングへの関心を高めていきたい。
4133	経済数学	例題を授業で解説し、自分でも解けるようにする授業形態に対する評価は高かった。試験に出る問題を事前に公表することで、勉強した学生ほど良い成績となるように工夫した。実際に、講義を理解し、自分でも演習を繰り返した学生が良い成績となった。応用統計学などの履修も推奨し、数学、統計、経済学等の関連分野の総合的な理解に向けて科目を運営していく予定である。
4135	植物保護学	教材の改善としては、教科書と重複する植物病理学分野は配付資料の要点を絞り、教科書で不足する部分を中心とする。一方で教科書を指定していない昆虫分野と防除分野はこれまでどおり配付資料を充実させる。特に防除分野は研究中的のものを含め、新たな技術を盛り込む。講義内容は必要な部分は残しつつ重点化を図り、十分な時間をとって学生が理解しやすい解説に努める。
4139	動物生殖学	動物繁殖学は私たちの普段の生活にも関係している部分も多くあるので、身近なテーマを取り上げて、授業でも紹介していきたいと考えています。わからないところはその日のうちに復習したり質問したりして、わからない部分をなくすようにしましょう。

令和5年度後期 改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4141	水棲植物学	これまでと同様に、本学における水産系領域の発展を期待して水棲植物の生物学や養殖について情報を伝えており、それに必要なレベルの講義を行うことができたと考えている。しかしながら、成績のは工夫して付けたので表面上大きな偏りはないが、実際の受講生の理解や学習到達度は両極性を示していて、良く理解している学生とそうでない学生の差があまりにも大きかった。また、アンケートではレポート課題が重すぎるという意見が多く、提出期限が短く字数が多いということであるが、難しい課題は出しておらず、これ以上レベルを下げるのは現実的ではない。これらについては、非常勤講師と今後の方針を相談して対応していきたい。
4142	アグロテクノロジー	新旧のカリキュラムで対象の学年が3年（必修）から2年（選択）に移行するため、R5は3年生と2年生が同時に実施する形となりました。クラスサイズが大きくメモリアルホールでの実施となりました。冬季の1限であったため寒い思いをした受講生もあり、受講時の環境を改善する必要を感じました。アンケートでは「今までの講義内の知識などを用いて、現在問題になっている事柄を改善するアイデアを考え発表する点が、学んだ知識をこのようなことに応用することが出来るなどの新たな発見があって、とても良い時間だったと思った。」（2年生、選択）というポジティブなコメントをいただき、大きな方向性については変更せずに、事例などは最新の情報を盛り込んでいきたいと考えています。R5は教員側のアクシデントが2回ほどあり、補講を実施することとなりました。スケジュール的に学生に無理がある部分もありましたので、そのようなことが無いよう注意喚起したいと思います。
4130	食品マーケティング基礎	学習範囲が幅広いことから中間試験を設けたが、そのタイミングと最終試験との関連について改善の声があがったため、次年度からは日程の修正および試験内容に関する説明をより丁寧に行うことで改善を図る。また、講義内での食品マーケティングに関する最新の事例共有については好評だったため引き続き重点的に取り組み、学生の食品マーケティングへの関心を高めていきたい。
4133	経済数学	例題を授業で解説し、自分でも解けるようにする授業形態に対する評価は高かった。試験に出る問題を事前に公表することで、勉強した学生ほど良い成績となるように工夫した。実際に、講義を理解し、自分でも演習を繰り返した学生が良い成績となった。応用統計学などの履修も推奨し、数学、統計、経済学等の関連分野の総合的な理解に向けて科目を運営していく予定である。
4137	植物生産実験実習Ⅱ	作物分野：前年度の学習到達目標達成を、継続しうる内容を提供する。水稻実験では宮城県主要品種の理解向上をより図る。形態観察では組織固定から観察までの工程を体験できるようにする。 園芸分野：実習の間隔が空いたため、養液栽培の培養液管理が遅れ、作物の成長に無機塩類が及ぼす影響について、推測するのが難しくなった。来期は学生が理解しやすいように改善を図りたい。 土壌分野：時間が超過した回があったが、機器が限られているために待ち時間が長かったためと思われる。迅速にできないグループがあるとその分長引くため、効率的に行う工夫をする。例えば、予定した時間に終わらないグループは強制終了なども考える。実験ノートに関しては、他のレポートとの兼ね合いを聞きながらその場で設定していたが、意図が伝わらないようなので、機械的に2週間後と決めることにする。また、実験ノートの提出をすると、他の実験で実験ノートの提出ができない場合があったりしたのでコピーの提出とする。 病虫害分野：より多くの植物病原菌および昆虫病原菌を用意し、同期開講の「植物保護学」で得る知識を補完して理解を深める。
4145	分子生物学	小テストの回数を増やしてほしいという要望があったので検討する。事前事後学習にスムーズに取り組めるよう、参考書等も紹介しているので、自主学習に務めてほしい。また、わからないことがあれば積極的に質問に来てほしい。

令和5年度後期 改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4146	食品企業経営論	<p>指定テキストを読むだけでなく十分な時間で予習可能ですが、実際には1時間以内しか使われていません。予習段階で内容をどこまで深められるか、言い換えれば、使われている語句の正確な意味を理解し、使いこなせるかどうか、そして自分の身の周りの具体的企業活動の事例に適用できるかが問われる科目です。</p> <p>授業最初の30分程度は前回授業に対するコメントや質問に答える形で「講義内復習」を実施しています。教員のコメントは良いモノばかりではないことを十分に理解してください。場合によっては出された意見に対する厳しい批判という形を取ることもあります。これは書いた人への人格的な批判ではなく、あくまで書かれた文章とその内容に対する批判です。まずは、それを理解すること、そして大学生であれば自らの意見を好意的に批判されることも少しずつ慣れてほしいと思います。事前にしっかりと予習した学生のコメントと何も準備せずにそのまま授業を聞いた学生のコメント（感想）では内容やレベルに大きな違いがありますので、2024年度もその点を踏まえて対応したいと思います。</p> <p>授業で使用したスライドは配布しません。スライドを欲しいという意見が毎年出ますが、そもそも教科書があるということを理解して下さい。この分量の教科書、それも1回当りの分量はわずかです。そこから自らの予習・復習でどこまで膨らませるかが問われています。授業で話す内容のうち、教科書に出ていない部分は、教科書からどのように様々なことを考えられるかという例ですので、「教員のまとめ」であるスライドを覚えるのではなく、まとめは自ら作ること、そして「考え方」を授業で習得して下さい。単に、経営学基礎を覚えるためなら、一般的な経営学のテキストがいくらでも市販されていますし、内容にはほとんど大差はありません。</p>
4148	食品流通論	<p>講義内容は前年度の内容を活用していたため、2年生では理解が及ばないところがあったように感じたため、次年度では2年生の履修状況を確認したうえで、内容の修正を行っていく。また、資料については、ポイントとなる内容に書き込む形式しているが、関係性や関連性を踏まえて理解できていないと感じたため、ポイントとなる内容については、もう少し丁寧に説明していくよう努めたいと思います。</p> <p>レポートの締め切りが短いとの指摘については、冬休みに入る前に提出日を設けた時のことだと思いますが、A4に図表込み1ページでまとめるミニレポートであるため、さほど時間はかからないと考えており、問題はなかったと考えます。</p> <p>全体的に全授業の平均値を下回っており、その中でも特に低い「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」「学生自身の授業目標達成度」を中心に、改善に取り組んでいきます。</p>
4149	食品貯蔵・流通技術論	<p>事前事後学習は1時間前後と、講義型の科目としては少なくない数値と考えるが、しかし十分な時間とは言えない。来年度以降は事前学習に取り組めるような課題を提示しながら進めたい。</p>
4150	食品工学	<p>近年、物理を履修する学生が少なくなっており、抵抗感が高まっていることから、図や用語をわかりやすく説明し、また、社会での活用事例について触れることで実学を意識した講義とする。</p>
4152	畜産食品学	<p>アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、中間試験、期末試験の実施、レポート課題などを行う。</p> <p>感想などをフィードバックし、できるだけ双方向な授業を実施する。</p>
4153	調理科学	<p>アンケートの結果から、全体として特に大きな問題はないと思われるため、今後も、小テストや試験の実施、レポート課題などを行いながら、知的好奇心を刺激するような講義を行う。</p> <p>小テスト・質問などはteams等を使って共有し、双方向な授業を引き続き実施し、学生の理解度や到達度を確認しながら、講義を実施する。</p> <p>現在この講義の教科書を作成しており、それをを用いることにより、講義内容が深まるとともに、予習・復習がしやすくなる効果が期待される。</p>

令和5年度後期 改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4154	食品衛生学実験	当該科目の内容は実際の食品工場における品質管理現場で行われている内容を、理論と実践を伴った型で体験するものとなっている。本年度は、積極的な学生参加と十分な学習により充実したものとなった。参加した学生には、今後の学習に関しても本実験科目と同様に積極的な取り組みを続けてもらいたい。この内容を十分に理解した上で、実験の臨むことにより、実際の現場においても必ず役に立つ内容となっている。次年度以降も基本的にこの内容で実験を進める。ただし、一部の受講者で事後のレポート作成の際に、十分に実験内容や実験結果を把握しないまま、レポート提出したようであった。本来であれば、分からない部分は自己学習または、教員への質問などでフォローすべきなのだが、この部分が欠けていたようであった。次年度はこれらの部分も含めてしっかりフォローしたい。また、カリキュラム改編の関係で、次年度は受講者の数が増えることが想定されている。必要な器具類などは補充しながら、科目運営に影響のないように環境整備を行う。
4143	アグリビジネス論	"「出席しなくても出席したことにできるような仕組みを変え、確実に授業を受けた人だけが出席したことになるようにしてほしい。」とのことなので、そのようになるよう改善します。
4128	科学基礎実験	レポート数が多くて、大変だったという意見が多かった。実験実習は実技だけでなく、レポートにより結果を整理し、論理的に考察する力を身に付けることが重要なため、レポートにかかる時間も不可欠である。一定の努力は成長に欠かせないものであるため、前向きな姿勢で積極的に取り組んでいただきたい。 次年度からは、レポート作成の基本的なスキルやポイントをあらかじめ講義するよう改善を行う予定である。また、1年生が取り組みやすいように、実験における基本操作を多く取り入れ、理解度の向上を図る計画である。
4123	アグリビジネス論	「出席しなくても出席したことにできるような仕組みを変え、確実に授業を受けた人だけが出席したことになるようにしてほしい。」とのことなので、そのようになるよう改善します。 「期末レポートのテーマが絞りづらかった。」とのことで、今期からは期末試験に変えます。
4144	食材生産経営学	「食材生産経営学」は、何かを暗記するような学問ではなく、考え方や概念を学ぶものだと思っています。その考え方や概念を体得するには、社会人経験が不可欠なのかもしれませんが、学生時代の読書、サークル活動、アルバイトなどでも十分補完できると思います。 レポートでは、自分の理解したことをまとめるように指示しているが、自分の理解や考えを文章にできない学生がいます。授業の中で話させることも重要だが、文章を書かせることもこれまでどおり続けていきたい。
4145	分子生物学	小テストの回数を増やしてほしいという要望があったので検討する。事前事後学習にスムーズに取り組めるよう、参考書等も紹介しているので、自主学習に務めてほしい。また、わからないことがあれば積極的に質問に来てほしい。

令和5年度後期 改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4146	食品企業経営論	<p>指定テキストを読むだけでなく十分な時間で予習可能ですが、実際には1時間以内しか使われていません。予習段階で内容をどこまで深められるか、言い換えれば、使われている語句の正確な意味を理解し、使いこなせるかどうか、そして自分の身の周りの具体的企業活動の事例に適用できるかが問われる科目です。</p> <p>授業最初の30分程度は前回授業に対するコメントや質問に答える形で「講義内復習」を実施しています。教員のコメントは良いモノばかりではないことを十分に理解してください。場合によっては出された意見に対する厳しい批判という形を取ることもあります。これは書いた人への人格的な批判ではなく、あくまで書かれた文章とその内容に対する批判です。まずは、それを理解すること、そして大学生であれば自らの意見を好意的に批判されることも少しずつ慣れてほしいと思います。事前にしっかりと予習した学生のコメントと何も準備せずにそのまま授業を聞いた学生のコメント（感想）では内容やレベルに大きな違いがありますので、2024年度もその点を踏まえて対応したいと思います。</p> <p>授業で使用したスライドは配布しません。スライドを欲しいという意見が毎年出ますが、そもそも教科書があるということを理解して下さい。この分量の教科書、それも1回当りの分量はわずかです。そこから自らの予習・復習でどこまで膨らませるかが問われています。授業で話す内容のうち、教科書に出ていない部分は、教科書からどのように様々なことを考えられるかという例ですので、「教員のまとめ」であるスライドを覚えるのではなく、まとめは自ら作ること、そして「考え方」を授業で習得して下さい。単に、経営学基礎を覚えるためなら、一般的な経営学のテキストがいくらでも市販されていますし、内容にはほとんど大差はありません。</p>
4148	食品流通論	<p>講義内容は前年度の内容を活用していたため、2年生では理解が及ばないところがあったように感じたため、次年度では2年生の履修状況を確認したうえで、内容の修正を行っていく。また、資料については、ポイントとなる内容に書き込む形式しているが、関係性や関連性を踏まえて理解できていないと感じたため、ポイントとなる内容については、もう少し丁寧に説明していくよう努めたいと思います。</p> <p>レポートの締め切りが短いとの指摘については、冬休みに入る前に提出日を設けた時のことだと思いますが、A4に図表込み1ページでまとめるミニレポートであるため、さほど時間はかからないと考えており、問題はなかったと考えます。</p> <p>全体的に全授業の平均値を下回っており、その中でも特に低い「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」「学生自身の授業目標達成度」を中心に、改善に取り組んでいきます。</p>
4149	食品貯蔵・流通技術論	<p>事前事後学習は1時間前後と、講義型の科目としては少なくない数値と考えるが、しかし十分な時間とは言えない。来年度以降は事前学習に取り組めるような課題を提示しながら進めたい。</p>
4150	食品工学	<p>近年、物理を履修する学生が少なくなっており、抵抗感が高まっていることから、図や用語をわかりやすく説明し、また、社会での活用事例について触れることで実学を意識した講義とする。</p>
4152	畜産食品学	<p>アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、中間試験、期末試験の実施、レポート課題などを行う。</p> <p>感想などをフィードバックし、できるだけ双方向な授業を実施する。</p>
4153	調理科学	<p>アンケートの結果から、全体として特に大きな問題はないと思われるため、今後も、小テストや試験の実施、レポート課題などを行いながら、知的好奇心を刺激するような講義を行う。</p> <p>小テスト・質問などはteams等を使って共有し、双方向な授業を引き続き実施し、学生の理解度や到達度を確認しながら、講義を実施する。</p> <p>現在この講義の教科書を作成しており、それをを用いることにより、講義内容が深まるとともに、予習・復習がしやすくなる効果が期待される。</p>

令和5年度後期 改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4154	食品衛生学実験	<p>当該科目の内容は実際の食品工場における品質管理現場で行われている内容を、理論と実践を伴った型で体験するものとなっている。本年度は、積極的な学生参加と十分な学習により充実したものとなった。参加した学生には、今後の学習に関しても本実験科目と同様に積極的な取り組みを続けてもらいたい。この内容を十分に理解した上で、実験の臨むことにより、実際の現場においても必ず役に立つ内容となっている。次年度以降も基本的にこの内容で実験を進める。ただし、一部の受講者で事後のレポート作成の際に、十分に実験内容や実験結果を把握しないまま、レポート提出したようであった。本来であれば、分からない部分は自己学習または、教員への質問などでフォローすべきなのだが、この部分が欠けていたようであった。次年度はこれらの部分も含めてしっかりフォローしたい。また、カリキュラム改編の関係で、次年度は受講者の数が増えることが想定されている。必要な器具類などは補充しながら、科目運営に影響のないように環境整備を行う。</p>